

施策評価（令和 6 年度）

施策評価調書

戦略 3 観光・交流戦略			
目指す姿 1 「何度でも訪れたくなるあきた」の創出			
幹事部局名	観光文化スポーツ部	担当課名	誘客推進課
評価者	観光文化スポーツ部長	評価確定日	令和 6 年 7 月 31 日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

時代の流れや価値観等の変化に柔軟に対応し、裾野の広い観光産業の稼ぐ力を引き出すとともに、旅行者が何度でも訪れたくなる魅力的な秋田の観光の実現を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性②】 「アキタファン」へのアクセス数(千件)	目標	/	/	1,500	1,620	1,740	1,860	169.0%	4	
		実績	—	—	2,108	2,737					
②	【施策の方向性②～④】 観光地点等入込客数(延べ人数)(千人)	目標	/	/	28,000	35,000	36,500	38,000	81.0%	2	
		実績	35,270	18,360	25,275	28,354					
③	【施策の方向性①、③、④】 延べ宿泊者数(千人泊)	目標	/	/	2,900	3,300	3,700	3,800	90.9%	3	
		実績	3,654	2,546	2,772	3,001					
④	【施策の方向性⑤】 外国人延べ宿泊者数(人泊)	目標	/	/	10,000	20,000	35,000	70,000	477.3%	4	
		実績	139,400	25,380	16,280	95,460					
出典:観光庁「宿泊旅行統計調査」		達成率	/	/	95.6%	90.9%					

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 $\geq 100\%$ 3点: $100\% > \text{達成率} \geq 90\%$ 2点: $90\% > \text{達成率} \geq 80\%$
 1点: $80\% > \text{達成率} \geq 70\%$ 0点: $70\% > \text{達成率}$ n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式					
3.25 (b 相当)	4 点	\times	2 個	=	8 点	1 点
	3 点	\times	1 個	=	3 点	0 点
	2 点	\times	1 個	=	2 点	0 点
合計			13 点	\div	4 個 (判明済み指標) =	3.25

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
 d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 自立した稼ぐ観光エリアの形成】

- ・観光業の生産性向上を図るため、宿泊施設での経営効率化に向けたシステム導入（18件）のほか、サービスの高付加価値化に向けた施設整備（35件）を支援した。

【施策の方向性② ターゲットの的確な把握と効果的な誘客プロモーションの展開】

- ・データに基づいた観光戦略の展開に向けて、データ分析の共通基盤となる「秋田県観光DMP」を構築したほか、男鹿市、鹿角市、仙北市の各観光地域づくり法人と連携し、DMPのデータ活用等の実証を実施した。

【施策の方向性③ 時代の変化を捉えた秋田ならではのツーリズムの推進】

- ・世界自然遺産を有する1都1道4県が連携し、共同でPRや世界自然遺産を活用した商品造成を促進したほか、白神山地の魅力を来訪者に伝えるとともに保全活動を担う「あきた白神認定ガイド」を確保するための講習を実施し、2名が新規認定され、13名が認定期間を更新した。さらに、白神山地エリアにおいて行うことができる体験プログラムやアクティビティ等の情報を調査し、収集・整理を実施した。

【施策の方向性④ 旅行者の多様なニーズに応じた受入態勢の整備】

- ・バリアフリー観光を推進するため、観光施設のバリアフリー調査（調査対象：4件）や高齢者モニターツアー（参加者数12名）を実施した。

【施策の方向性⑤ 戰略的なインバウンド誘客の推進】

- ・海外での本県の認知度向上を図るため、台湾・中国・韓国・タイに配置している現地コーディネーターを通じてSNSや現地イベント等で情報発信を行った結果、令和5年度の各市場向けのSNS等のリーチ数が8,511,744となつた。
- ・令和5年12月に台湾チャーター便が就航し、令和5年度は延べ11,044人（うち台湾人等が10,556人）が利用した。
- ・令和5年3月に国際クルーズの受入を再開し、28回の寄港受入を行ったほか、今後の寄港の継続化に向けて海外船社の関係者を招聘した。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
b	<p>成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.25で「b相当」であることから、総合評価は「b」とする。</p> <p>【定性的評価として考慮した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・

4 県民意識調査の結果

質問文	秋田の魅力が向上し、国内外から観光誘客が進んでいる。					
満足度	調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	12.9%	14.9%			+2.0
	十分 (5点)	1.3%	1.6%			+0.3
	おおむね十分 (4点)	11.6%	13.3%			+1.7
	ふつう (3点)	39.1%	31.7%			△7.4
	否定的意見	37.6%	46.2%			+8.6
	やや不十分 (2点)	21.8%	26.0%			+4.2
	不十分 (1点)	15.8%	20.2%			+4.4
	わからない・無回答	10.3%	7.1%			△3.2
	平均点	2.56	2.46			△0.10

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光産業を取り巻く環境は改善しつつあるが、他の産業に比べ労働生産性が低いほか、人材不足が生じている。 ○ 観光産業において、観光消費額の拡大に向けた「観光で稼ぐ」観光地経営の取組が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「冬季・インバウンド誘客の促進」や「宿泊施設の高付加価値化」、「デジタル技術の活用の推進」により労働生産性の向上を図るとともに、職場環境の改善や意欲・スキルの向上、女性活躍推進などの「観光人材の確保」に向けた取組を進める。 ○ 地域資源を活用した観光コンテンツの掘り起こしや磨き上げのほか、「食・文化・スポーツ」と観光との連携した取組や新たな旅行ニーズに対応した誘客を推進する。
②	<ul style="list-style-type: none"> ○ データの質と量が充実しておらず分析の精度に向上の余地があるほか、観光地域づくり法人や宿泊事業者などにおけるデータ活用やデジタル人材の育成が十分とはいえない。 ○ デジタルマーケティングによって把握された本県に関心の高いターゲット層に対する認知度を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ データの質と量の充実に向けたデータを提供する宿泊事業者の参加拡大や、分析結果の活用促進に向けた観光地域づくり法人等への支援等を行う。 ○ 「アキタファン」を活用したデジタルプロモーションの展開とターゲットの分析を進めるほか、東北及び新潟県と連携した広域的なプロモーションを展開する。
③	<ul style="list-style-type: none"> ○ ライフスタイルの変化等により旅行形態やニーズが多様化しているものの、本県の特色を生かしたコンテンツが不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様化した旅行形態に対応するために、秋田を代表する世界遺産や国指定重要無形民俗文化財等の多様な自然・文化の魅力を最大限PRするほか、洋上風力発電などの新たな旅行資源を活用した受入態勢の整備に係る市町村の取組の支援等を図る。また、令和5年度に調査した情報をデータベース化し、旅行商品の造成や利用者の増加につなげる。
④	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様化する旅行ニーズに対応した受入態勢の整備が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バリアフリー観光の推進を図るため、モニターツアーを開催するほか、観光地・宿泊施設等に係る情報発信及び電話相談等により安全・安心に旅ができるよう支援する。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ○ インバウンド需要の更なる増加が見込まれている中、クルーズ船の誘致などに向けた他都道府県との競争が激化している。 ○ 台湾チャーター便の就航により、秋田空港を利用する台湾人旅行者が増加したため、案内等に十分な対応ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ アフターコロナの本格的なインバウンド需要の回復に向け、市場特性に応じたSNS等での継続的な情報発信を行うとともに、クルーズ船の継続的な寄港を維持し、海外からの誘客を促進する。 ○ 秋田空港内に通訳兼案内担当を配置し、施設案内及び誘導を行うほか、二次交通の案内等を行い、台湾人旅行者の満足度の向上を図る。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「b」をもって妥当とする。